

社会福学科 介護福祉専攻 1年 前期 専門科目

1. 人間関係とコミュニケーション I
2. 社会と制度の理解 I
3. 介護の基本 I
4. コミュニケーション技術 I
5. 生活支援技術 I-①
6. 生活支援技術 II-①
7. 介護過程 I
8. 介護総合演習 I
9. 発達と老化の理解 I
10. 障害の理解 I
11. こころとからだのしくみ III
12. 介護実習 I-①

社会福祉学科

介護福祉 専攻

1 年

科目名: 社会と制度の理解 I				担当教員 氏名: 宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 前期	専門必修科目	講義	必修	介護福祉士(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:				社会福祉士としての実務経験をもとに事例を交えながら授業する。		
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する。また、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。				生活時間、生活支援、社会保障(制度)、福祉六法		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.		
A 知識・理解力		人間を捉える視点で、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解できる。また、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解できる。				
C 論理的思考力		「社会保障」に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。				
G 倫理観		尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: 「その他:30%」では、授業態度について評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な時間(分)
①オリエンテーション～自立した生活を営むとは～				【予習】テキスト第1章第1節1を読む 【復習】①の復習	【予習】30分 【復習】30分	
②生活時間について～他者との比較～				【予習】自分の生活時間を記録 【復習】②の復習	【予習】30分 【復習】30分	
③家族とは～家族の機能と役割～				【予習】テキスト第1章第2節を読む 【復習】③の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④地域と社会～コミュニティとアソシエーション～				【予習】テキスト第1章第3節を読む 【復習】④の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤ライフスタイルの変化と社会構造の変容				【予習】テキスト第1章第4・5節を読む 【復習】⑤の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥生活支援と福祉～自助・共助・公助～				【予習】テキスト第1章第6節を読む 【復習】⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦家族、地域・社会に対する介護福祉士が果たすべき役割とは・中間まとめ				【予習】①～⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧社会保障(制度)～私たちが利用してきた社会保障制度は?～				【予習】テキスト第2章第1節を読む 【復習】⑧の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑨DVD学習～社会保障制度について考える～				【予習】テキスト第2章第3節を読む 【復習】⑨の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩社会福祉の制度①～社会福祉制度の歴史と変遷～				【予習】テキスト第2章第2節を読む 【復習】⑩の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑪社会福祉の制度②～福祉六法～				【予習】福祉六法の概観を理解する 【復習】⑪の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑫DVD学習～社会福祉制度・サービスについて考える～				【予習】テキスト第2章第3節を読む 【復習】⑫の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑬社会保障と関連制度				【予習】テキスト第2章第4節1～3を読む 【復習】⑬の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑭DVD学習～これからの社会保障制度を考える～				【予習】テキスト第2章第4節4を読む	【予習】30分 【復習】30分	
⑮介護福祉士と社会保障制度・まとめ				【予習】⑧～⑭の復習	【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト: 最新・介護福祉士養成講座2「社会と制度の理解」中央法規 ISBN978-4-8058-5762-5 「福祉小六法」中央法規 ISBN978-4-8058-5812-7				その他参考文献など: 「厚生労働白書」(毎年発行)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各テーマは重複する点もあるので、配布した資料等は毎回持参すること。						

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名: 介護の基本 I				担当教員 氏名: 野村 幸伸		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
4	1年次	前期	専門科目	講義	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 介護福祉士としての実務経験や施設管理者としての経験から授業を担当する。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
本科目は介護領域の基盤となる科目です。介護の目的、求められる介護福祉士の全体像について理解する。また、介護福祉士の専門領域である生活や生活障害の理解、生活を流れ捉え、その人らしい生活支援への視点についての基礎知識を習得する。						生活 その人らしさ 生活支援
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 4. 5. 6.	
A 知識・理解力			介護福祉士の役割や専門性を理解することができる			
C 論理的思考力			利用者主体の介護を常に考えることができる能力を養う			
G 倫理観			利用者の尊厳を遵守できる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %		レポート: 10 %		発表: %	実技試験: %	その他: 20 %
特記事項: 本科目は、テスト及び授業態度や積極性を主に評価する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験やレポートの結果を本人に伝える。						
使用テキスト: 最新・介護福祉士養成講座3「介護の基本 I」中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会 ISBN978-4-8058-5763-2				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「介護」とは何かをしっかりと考えましょう。また生活することについてしっかりと考えましょう。						
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)
						学習内容
回数						
1	オリエンテーション 介護福祉士を目指す動機を考える 生活支援の全体像を理解する					介護福祉士をめざす動機や、めざす介護福祉士について考える。 【予習】30分 【復習】30分
2	介護福祉士の魅力と役割を学ぶ 介護福祉士からの特別講義 介護職員の仕事とは何かを理解する					介護福祉士をめざす動機や、めざす介護福祉士について考える。レポート作成。 【予習】30分 【復習】30分
3	介護の成り立ち、社会保障について					テキスト第1章1節を読む 【予習】30分 【復習】30分
4	介護の概念の変遷1970年代から					第1章2節を読む 【予習】30分 【復習】30分
5	介護の概念の変遷1990年代から					第1章2節を読む 【予習】30分 【復習】30分

※前ページよりつづき

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名： 介護の基本 I		担当教員 氏名： 野村 幸伸	
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	介護の基本理念	第1章3節-1	【予習】30分 【復習】30分
7	尊厳を支える介護、倫理について	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
8	自立を支える介護	第1章3節2・3	【予習】30分 【復習】30分
9	介護福祉士の役割と機能	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
10	地域包括システムと介護予防	第2章2節を読む	【予習】30分 【復習】30分
11	医療的ケアについての理解	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
12	人生最終段階の支援	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
13	災害時の支援とは	第2章1節-5を読む	【予習】30分 【復習】30分
14	災害時の介護	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
15	まとめと中間評価 介護福祉士に求められる生活支援を理解する	これまでの資料やテキストを確認	【予習】30分 【復習】30分
16	社会福祉士及び介護福祉士法の理解	第2章2節を読む	【予習】30分 【復習】30分
17	心身の状況に応じた介護	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
18	義務規定	第2章2節	【予習】30分 【復習】30分
19	介護福祉士法に関する規定	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
20	介護福祉士法に関する諸規定	配布資料確認	【予習】30分 【復習】30分
21	個別ケアを考える		【予習】30分 【復習】30分
22	ユニットケアを考える		【予習】30分 【復習】30分
23	生活ニーズについて		【予習】30分 【復習】30分
24	介護福祉教育のはじまり	第2章3節	【予習】30分 【復習】30分
25	社会福祉専門職の役割	第2章3節	【予習】30分 【復習】30分
26	介護福祉士への期待	配布資料の確認	【予習】30分 【復習】30分
27	チームリーダーとしての役割と期待	配布資料の確認	【予習】30分 【復習】30分
28	介護福祉を支える団体	配布資料の確認	【予習】30分 【復習】30分
29	期末評価、学会について	配布資料の確認	【予習】30分 【復習】30分
30	まとめの授業	テキストや配布資料を確認する	

社会福祉学科

介護福祉 専攻

科目名: コミュニケーション技術 I			担当教員 氏名: 毎熊 由紀、黒田 美樹						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	前期	専門科目	演習	必修	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格			
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 手話担当者は手話通訳士としての経験から基本的な手話の習得を目指す授業を行う。介護福祉士の経験から、要 介護者とのコミュニケーションに関し具体例を提示しながら授業を行う。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
要介護者への生活支援場面におけるコミュニケーションの意義と目的を知り、技法についての 目的や効果を理解し、演習を通して活用法を学びます。特に手話では、聴覚障害の理解と手話 によるコミュニケーションを学びます。また手話の概要と、自己紹介・簡単な会話ができる程度 の手話技術の習得を目指します。						手話 聴覚障がい 要介護者との信頼関係 生活支援の理解 家族			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 5. 6.				
A 知識・理解力			要介護者への基本的なコミュニケーションの知識・技術を学ぶことができる						
B 専門的技術			手話の基礎的技術を習得する。介護場面におけるコミュニケーション技術を習得することができる						
C 論理的思考力			要介護者・家族に対する適切なコミュニケーションを組み立てることができる						
H コミュニケーション力			手話によるコミュニケーションおよび高齢者難聴者との接し方を身につける。演習・事例を通し て要介護者へのコミュニケーションの実践力を養うことができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 黒田の回ではテスト70%、その他30%で評価し、毎熊の回に関してはテスト20%、レポート30%、その他50%(授業時の手話表現 (発表)および授業への参加姿勢を重視)します。手話の演習とコミュニケーション演習各50点の配点とし、合計点数を最終評価とします。黒田 の回に関しては、アクティブラーニングの一環としてグループディスカッションの形式を用います。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に最終評価のための試験とまとめを行います。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 各教員の筆記試験の結果をフィードバックします。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な 時間(分)				
①【黒田】介護におけるコミュニケーションとは				テキスト2～5pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
②【黒田】介護におけるコミュニケーションの対象と援助関係				テキスト6～17pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
③【黒田】傾聴・受容・共感				テキスト20～32pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
④【毎熊】手話概論 手話の実技(挨拶)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑤【毎熊】手話概論 手話の実技(自己紹介)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑥【毎熊】手話概論 手話の実技(家族・人物の表)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑦【毎熊】聞こえのしくみと聴覚障害 手話の実技(数の表現)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑧【毎熊】聞こえのしくみと聴覚障害 手話の実技(趣味に関する表)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑨【毎熊】聴覚障害者とコミュニケーシ ョン				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑩【毎熊】高齢難聴者との接し方 手話の実技(会話練習)				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑪【毎熊】まとめ				演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分				
⑫【黒田】言語・非言語・準言語コミュニケーション				テキスト33～39pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
⑬【黒田】目的別のコミュニケーション				テキスト40～55pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
⑭【黒田】集団におけるコミュニケーション				テキスト56～59pを読む	【予習】30分 【復習】30分				
⑮【黒田】グループにおけるコミュニケーション まとめ				テキスト60～67pを読む	【復習】30分				
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」編集介護福 祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 ISBN978-4-8058-5765-6 【手話】授業時にプリントを配布				その他参考文献など: ①「図とイラストで読む人間関係」福村出 版、水田恵三・西道 実編著 ②「私たちの手話 学習辞典Ⅰ」一般 財団法人全日本ろうあ連盟 ③「私たちの手話 学習辞典Ⅱ」一般 財団法人全日本ろうあ連盟 ④「手話で防災 ～聴覚障害者の災 害時支援のために～」一般財団法人全日本ろうあ連盟					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習には積極的に臨んでください。その取り組みの姿勢も評価します。また授業態度には十分気 をつけてください。									

6		4	1 8 0
7		5 6	9 0
8		2	1 2 0
9			1 2 0
10			1 2 0
11			1 2 0
12			1 2 0
13			1 2 0
14		1 3	1 2 0
15		1 4	1 2 0
16		1 5	1 2 0
17		1 6	1 2 0
18			6 0
19			6 0
20			6 0
21			6 0
22			6 0
23		2 6 1 2 9	6 0
24		2 5	6 0
25			6 0
26		2 7 2 8	6 0
27			6 0
28			6 0
29			6 0
30			6 0

社会福祉学科			介護福祉 専攻						
科目名: 介護実習 I-①			担当教員 氏名: 毛利 亘						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	前期	専門科目	実習	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 福祉・医療現場の経験者である専任教員が巡回指導を行います。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
利用者との人間的なふれあいを通じて、基本的な生活支援技術、コミュニケーション技術を学び、個別ケアの重要性を理解する。また他職種協働の実践を通して、チームケアの一員として介護福祉士の役割を理解します。					介護ニーズ 個別ケア 基本的な生活支援 コミュニケーション				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			利用者の生活や介護ニーズを理解することができる						
B 専門的技術			基本的な生活支援技術を経験することができる						
F チームワーク・リーダーシップ			介護職員の役割を理解することができる チームケアを知ることができる						
G 倫理観			利用者の尊厳を守ることができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	100 %
特記事項: 施設評価60%と巡回時の評価20%、学内における評価(実習記録)20%で成績評価します。高齢者施設において指導者から指導を受けながら介護実践を行います。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 施設評価を個人面談形式で伝達します。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容		学習に必要な時間(分)				
①			日々の記録を通して振り返る		予習・復習30分				
②									
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦			詳細については「実習要綱」に記載						
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト: ①最新介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会 ISBN978-4-8058-5770-0 ②「介護実習要綱」			その他参考文献など: 「介護職のための根拠に基づいた記録の書き方」エルゼビア・ジャパン 是枝祥子・佐藤富士子・浦尾和江・嶋田美津江編著						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習は利用者の生活の場で行われるものなので、十分にそのことを認識して真摯に臨んで下さい。									